

# 学校だより(いしがき)

第27号 令和4年1月20日  
文責: 校長 石橋 節二 TEL94-2038

## 学校教育目標

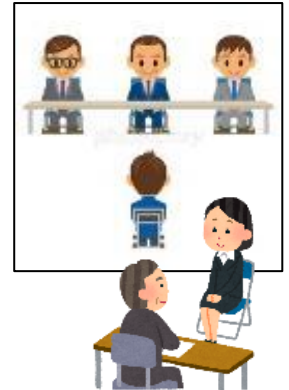
「ふるさと中原を担う生徒の育成」  
～自律と共同を通して～

今回の学校だよりは、私立高校推薦・特別選抜試験受検者対象面接練習、ふるさとの偉人(市村 清氏)について、故事成語⑩「朝三暮四」(ちょうさんぼし)、【お知らせ】本校卒業生からの絵画寄贈、ふるさとの歴史「佐賀の乱(寒水川の激戦)」、難解語句、1月下旬～4月上旬の主な行事予定について紹介します。

## ○私立高校推薦・県立特別選抜試験受検者対象面接練習

最近の高校入学試験では、ほとんどの高校で面接が課せられています。面接も点数化され、合否の判断材料になります。1月20日(木)に私立高校推薦試験、1月21日(金)に福岡・筑後地区私立専願試験、2月8日(火)に県立特別選抜試験がありますが、それぞれ面接もあります。そこで、面接試験にも慣れておく必要があるため、3年生スタッフや校長・教頭・教務が手分けして面接練習・指導にあたっています。

面接練習では、礼儀作法の指導や志望の動機、将来の夢、高校で頑張りたいことなどの質問について実践を想定して応答することを通して、進学することの意味や目的を本人自身に再確認させています。県立高校特別選抜試験が終わり次第、県立高校一般選抜試験対策の面接練習も計画・実施していきたいと思えます。



## ○ふるさとの偉人(市村 清氏)について

ふるさと佐賀、ふるさとみやき町を知り、郷土に対する自信と誇りを持ってもらいたいという願いから、今回は、みやき町出身の偉人の中からリコー三愛グループ社長だった市村 清氏(1900～1968)を紹介します。

市村 清さんは、北茂安の市原(いちばる)のご出身で、戦前から戦後の日本の経済界で大活躍をされた人物です。代表的な事業としては、三愛石油株式会社(羽田空港給油権)、コカコーラウエスト、リコーカメラ、OA機器(コピー機等)などがあります。市村 清さんは、三愛精神=「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」を生涯の信念とされ、真に人間の偉さを決定するものは、その人の持つ「愛」の深さや広さであり、三愛主義(=世界人類の一員として、まずすべての人を愛すること。日本人としては、祖国日本を愛すること。そして、自己がこの世に生を受けた意義を果たすため自分に与えられた任務を愛し、一生懸命励むこと)を唱えられました。

市村 清さんは、そういう考えに立ち、ふるさと佐賀に、私財を投じて北茂安小学校講堂(1958年)や佐賀県体育館=市村記念体育館(1963年)などを寄贈されました。



### 市村 清氏 名言

#### ○希望を失わないことが大切

人生というものは、たとえ、いかなる逆境、悲運に遭遇しても、希望さえ失わなければ、まったく消えてしまうものではない。

#### ○できない理由を考える前に、できる方法を

## ○故事成語⑩

### 朝三暮四(ちょうさんぼし)

- 【意味】① うまいことを言って、人をだますこと  
② 目先の違いに気をとられ、結果が同じことに気がつかないこと

#### 【由来】

宋(そう)の国の狙公(そこう)は、多くの猿を飼っていました。ところが、食料が減ってきたので猿にあてるえさのトチの実を減らそうと考えました。狙公(そこう)は、さるが自分になつかなくなることを心配し、まず、猿に「朝にトチの実を3つ、夕方にトチの実を4つやろう」と持ちかけました。すると、予想通り、猿は怒りだしたので、今度は「朝に4つに夕方に3つやろう」と言うと、猿はみんな頭を下げて喜んだということから、この語ができました。春秋戦国時代【今から約2250～2800年前の中国】(列子)

## ○【お知らせ】本校卒業生から絵画の寄贈

12月22日（水）、本校卒業生（昭和63年度）の方から絵画2点を寄贈していただきました。大きさは、横160cm×縦130cmと横80cm×縦160cmの2点です。本校には多くの方々から寄贈された絵画が数多く掲示されていますが、本校生徒の情操教育に大変役立っています。

今回寄贈された絵画は、北棟2階廊下と美術室に掲示予定です。ありがとうございました。



## ○ふるさとの歴史「佐賀の乱（寒水川の激戦）」

佐賀の乱については、社会（歴史）の授業で語句程度学習します。教科書には、明治維新の改革に不満を持つ士族の反乱が西日本で起こりますが、その一つとして記載されています。また、佐賀の七賢人として有名な**江藤 新平**（えとうしんぺい）や**島 義勇**（しまよしゆけ）が、この乱の首謀者にされて処刑されたということも知っている人がいると思います。この佐賀の乱を鎮圧するため、政府軍が鳥栖方面と久留米方面から攻め、朝日山・中原・三田川、また、三根・千代田方面で激戦が繰り広げられました。その戦闘の一つが**寒水川の激戦**です。今回は、そのことについて簡単に紹介します。

明治7年(1874年)2月23日、中原宿から長崎街道に沿って佐賀方面に進軍する政府軍が寒水川に架かる**六の坪橋**（現アスタラピスタの南西約300M付近）にさしかかったとき、現在の三養基高校付近の森（**化物山**）と現在の中原特別支援学校付近の丘陵地（**ジュウハ**）から狙い撃ちされ、数時間に及ぶ激戦が繰り広げられました。この戦闘は、政府



【ドラッグストアから見た三養基高校付近の森】

軍の一隊が綾部方面から原古賀付近へ南下して佐賀士族軍の背後を攻撃し、正午ごろ決着がつかしました。



【六の坪橋】



【旧長崎街道入り口】



【旧長崎街道(三養基高校南側)】

現在でも三養基高校東側には大きな木々がありますが、当時（150年前）は三養基高校付近の長崎街道の両側はうっそうとした深い森だったのではと想像できます。

## ○難解語句

**お茶を濁**（にご）**す**：お茶（抹茶）を点てる際に、お茶の作法を知らない素人は本格的なお茶を点てることができないので、その場で適当に真似事をして濁らせてごまかしたということが由来。何となくごまかすだけでなく、都合が悪いその場を取り繕ってしのご、という意味が強い。

**無茶苦茶**：「無茶」とはお客にお茶を出さないこと、「苦茶」は苦いお茶を客に出すことで、どちらにしても常識がない常識から外れているという意味を重ねて、「道理が合わないこと」や「知識がないこと」。類語には「滅茶苦茶（めちゃくちゃ）」がある。

**鯖**（さば）**を読む**：実際の数や年齢より多く見せかけたり、少なく言ったりしてごまかすことのとえ。語源は諸説あり、鯖は傷みやすく数も多かったためにわざと早口で数えて数をごまかしていたことから、いい加減に数を数えることを「鯖を読む」という意味になり現在の意味に転じたという説もある。

## ○1月下旬～4月上旬の行事予定

※新型コロナ（オミクロン株）感染拡大の影響で変更の可能性あり

- ・ 県内 私立高校 後期試験 2/3（木）
- ・ 県立高校 特別選抜試験 2/8（火）
- ・ 授業参観、2年生立志式 2/18（金）
- ・ 県立高校 一般選抜試験出願 2/21（月）、22（火）
- ・ 1,2年生学年末テスト2/22（火）24（木）25（金）
- ・ 佐賀北高校 通信制試験出願 3/2（水）～ 3/15（火）
- ・ 県立一般選抜試験 3/8（火）、9（水）
- ・ 第75回卒業証書授与式 3/11（金）
- ・ 県立高校一般選抜試験合格発表 3/15（火）
- ・ 令和3年度修了式・職員離任式 3/24（木）
- ・ 令和4年度 始業式、赴任式 4/6（水）
- ・ 令和4年度 中原中学校入学式 4/11（月）